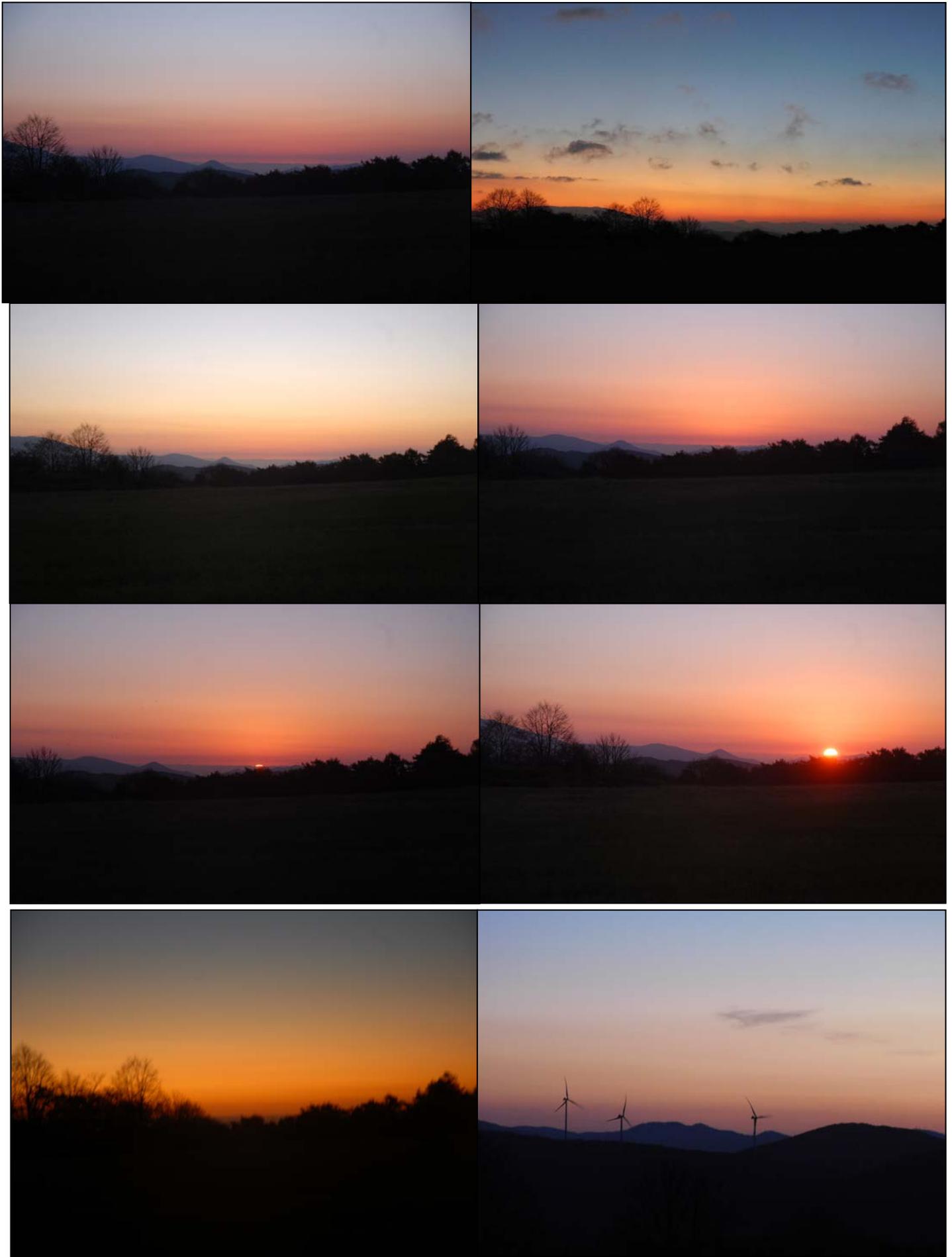


種山ヶ原は今③⑥ 1, 種山ヶ原 2, 米里の石川啄木と縁があっ

た人

「種山ヶ原の朝」11月4～6日撮影 赤も色々ありますね 微妙に変わる空の色が面白いです。



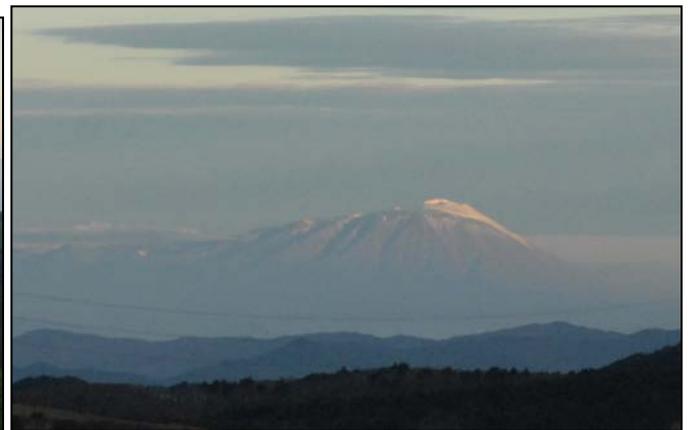
物見山にあるアメダスに朝陽



星座の森に朝陽



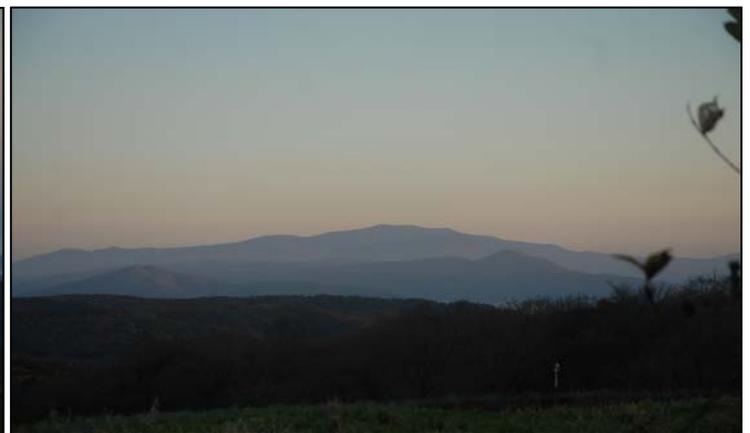
岩手山(岩鷲山)



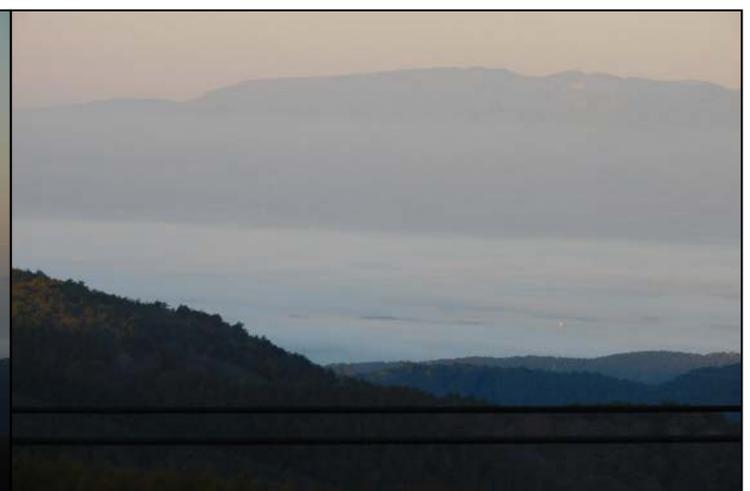
胆沢平野に雲海



早池峰山



奥羽山脈が朱鷲色に しかし全容を見せるのは少ない



「星座の森」

「メニューの少ない料理店」「薬湯」があります。



キャンプ場 炎火を見つめながら星空を見る

オートキャンプ場 ドッグラン



「石川啄木と縁のあった米里の人」①

宮沢賢治、石川啄木は盛岡中学に入学しているが、啄木が11年先輩である。

啄木と同じ頃、米里にも渡辺勉(人首町39番地)、同級生菊池正助(獣医・新聞記者、通称ショースケパン、人首町40)がいる。二人について報告します。

今回は渡辺勉さんです。

「渡辺勉 俳人 票兮」

明治33年 東北医専(現東北大学医学部)に入学

医者にはならず新聞記者?等をしながら仙台の俳壇で活躍?

明治35年 「明星」(主宰・与謝野鉄幹) 1首発表

明治38年 「小天地」(主宰・石川啄木)に6句

明治39年 米里村役場職員になる

時代的に合っているかどうか疑問だが、米里に句会が3団体もあるほど盛んで更に盛り上がったと思われる。彼は回覧板形式の投句句集「青瓢吟社」を立ち上げたが、佐藤半兵衛さんで回覧がストップ。おそらく佐藤半兵衛さんが大陸に渡ったためだと思われる。これが見つかれば扇さんと大陸に行った経緯も分かるのだが。どうやら現存するらしい。今いずこ。宝探しです。

明治39年12月7日

河東碧梧桐が新風を興す全国行脚途中、仙台で句会仲間の票兮の住む人首を訪れ、一句。

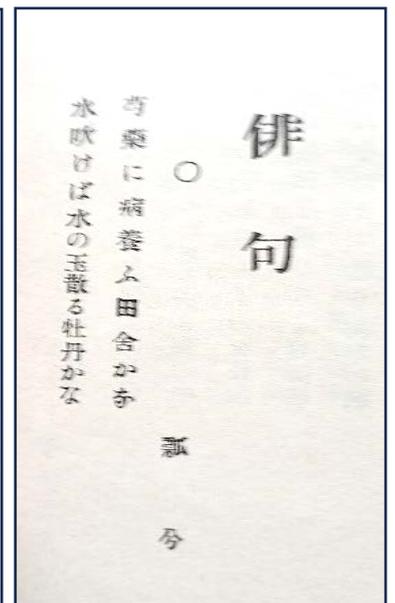
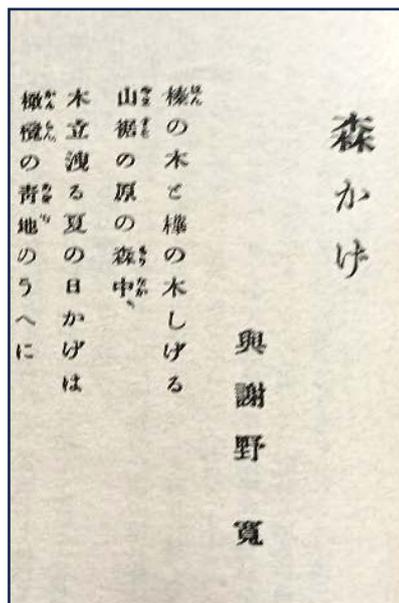
「人首と書いて何と読む寒さかな」

一行は五輪峠を越えて遠野へ

< 全国行脚の旅日記「三千里」に掲載 >

昭和4年 米里村助役

8年 退職



「小天地」主幹：石川啄木

発刊：明治38年9月

今尚、「あおぎり」(主宰利府真三)の同人が繋いでいます。

与謝野鉄幹の詩

票兮の俳句6句